

神戸大学国際協力研究科(GSICS) オープン・キャンパス

日時 2011年6月15日(水)13:30~

場所 神戸大学六甲台キャンパス

(出光佐三記念六甲台講堂／国際協力研究科棟)

【出光佐三記念六甲台講堂】

第一部:全体説明会(13:30-14:30)

終了後、国際協力研究科棟へ

【国際協力研究科棟】

第二部:プログラム別説明会(14:45-15:45)

出入り自由ですので、複数のプログラムの説明が聞けます。

【国際学】シミュレーションルーム(6階)

【開発・経済】プレゼンテーションルーム(4階)

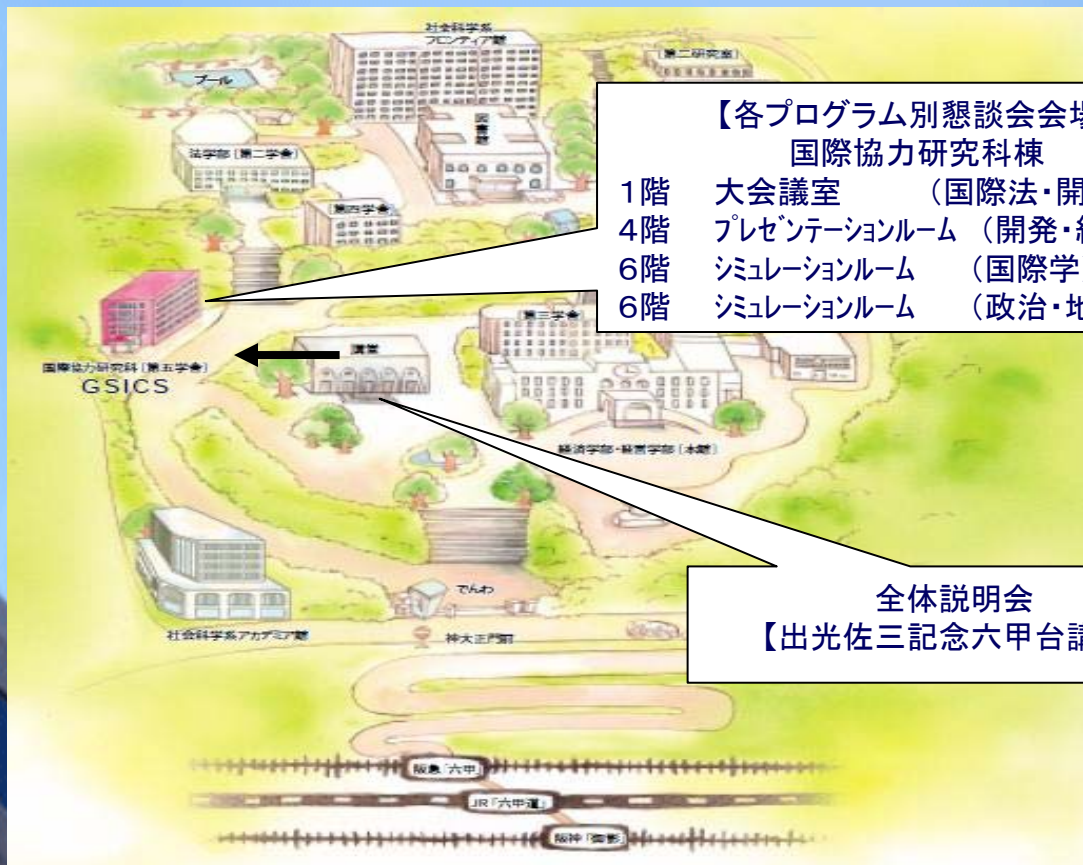
【国際法・開発法学】大会議室(1階)

【政治・地域研究】シミュレーションルーム(6階)

★ G6-WEEK

2011年6月16日(木)より6月21日(火)までの期間、GSICSにおける1時限から5時限までの講義およびゼミを公開します。聴講希望の方はGSICSホームページ上で公開予定科目を確認の上、メールで事前申し込みをして下さい。

<http://www.gsics.kobe-u.ac.jp/indexj.html>



【各プログラム別懇談会会場】 国際協力研究科棟

- 1階 大会議室 (国際法・開発法学)
- 4階 プレゼンテーションルーム (開発・経済)
- 6階 シミュレーションルーム (国際学)
- 6階 シミュレーションルーム (政治・地域研究)

全体説明会
【出光佐三記念六甲台講堂】

神戸大学
国際協力研究科 (GSICS)

国際法プログラム

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ilaw/gsics-icl/index.html>

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ilaw>

お問い合わせ: ilaw_inquiry@people.kobe-u.ac.jp

＜オープンキャンパス＞

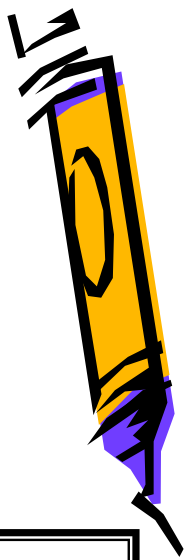
日時: 2011年6月15日(水)13時30分から
場所: 六甲台キャンパス・出光佐三記念六甲台講堂

上記全体説明会に続いて、国際協力研究科棟・大会議室にてプログラム別説明会(14:45-15:45)もあります。たくさんの方の参加をお待ちしています！

GSICS国際法プログラムは皆さんの多様なニーズと関心におこたえするプログラムと自負しています。2011年度には、一年間神戸大学を離れる五十嵐正博教授にかわって外務省より毛利忠敦教授が加わり、柴田明穂教授、毛利忠敦教授、林美香准教授の3名がプログラムに所属して教育・指導を行っています。国際法プログラムの演習の一部には、法学研究科の坂元茂樹教授、玉田大准教授にもご参加いただき、実質的には二つの研究科の合計5名の教員による手厚い論文指導を受けられる体制になっています。また、神戸大の教員による講義に加えて、毎年、外部講師による多くの講義を提供しているのも、GSICS国際法プログラムの特徴です。

さらにGSICSでは「国際公務員養成プログラム」も実施されています。国際公務員養成プログラムによる財政的な補助を利用して、2011年度には国際法プログラムに所属する博士前期・後期課程のそれぞれの学生が、国連・薬物犯罪事務所・バンコク事務所(タイ)、生物多様性条約事務局(カナダ)でのインターンシップを実施します。同じ補助を利用して、2010年度には、国際法プログラムの博士後期課程の学生が化学兵器禁止機関での長期インターンシップに出たほか、2009年度には計4名の学生が、クメール・ルージュ裁判・カンボジア特別法廷、国連・人権高等弁務官事務局等でのインターンシップを実施しました。

皆さんと神戸大学大学院国際協力研究科でお会いできることを、国際法プログラム教員一同楽しみにしています。



国際法プログラムの教育方針

我々が目指している教育内容は、「国際社会を舞台に活躍できる人材の輩出」です。

✓国際社会を舞台に活躍する人とは？

国連、UNHCR などの国際機関で働く国際公務員を筆頭に、JICA など国際協力関係公的機関職員、コンサルティングないし研究機関職員、国際 NGO 職員、外交官など。

✓これら職種に必要とされる資質・能力とは？

専門的知識、実践的能力、語学力、実務経験、どんな困難にも立ち向かう気力と体力。

※これら職種に誰もが就けるものではありませんし、修士を終えて一般企業に就職を希望する人もいます。国際法プログラムでは、そのような希望をもつ人をも受け入れますが、修士から博士に進み上記職種を「最短コース」で目指す人に対応できるようなカリキュラムを用意し、そのレベルでの教育を提供しようと心がけています。

カリキュラムの特徴は、「多様かつ体系的、バランスの取れた授業科目の提供」です。

✓「多様な科目」とは？

国際法基礎科目と共に、人権、環境、経済などの「売れる」分野の授業科目を提供できるよう心がけています。また、外交官などの実務家による授業、国際会議を傍聴する海外実習なども適宜開講する予定です。

✓「体系的カリキュラム」とは？

文献のリサーチ方法を教授する実習と国際法教科書を英語で精読する演習を1年生前期に配置し、後期には人権、環境、経済などの個別分野の専門性を高める授業を提供します。更に、英語コースの授業も全体のカリキュラムの中に位置づけ、語学力向上の機会を提供します。実践的能力をつけるため、多国間条約交渉や海外実習などの授業も適宜組み込んでいます。修論については、1年生後期から継続的に指導ができる場と機会を設けています。

✓「バランスの取れたカリキュラム」とは？

大学院では、文献を読んで報告者が報告するゼミ形式の授業が中心となりますが、これは負担も大きいのが現実です。そこで、講義中心の授

業もいくつか設け、更に、ブリーフィングや、模擬交渉など実務的な訓練の機会も設けるようにしています。

指導方法の特徴は、「演習を中心とした密度の濃いかつ複数教員による指導」です。

✓「密度の濃いかつ複数教員による指導」とは？

指導の中核は「国際協力法演習」になり、ここでは、指導教員が誰であるかに関わりなく、GSICS、法学研究科所属の5名の国際法教員とじっくり議論ができます。

国際法プログラム

2011 年度履修推奨科目一覧

必修	前期	国際協力法演習 2 限(柴田)
		国際協力法演習 3 限(林)
	後期	国際協力法演習 2 限(柴田、毛利、林、法研の教員)
		国際協力法演習 3 限(柴田)

履修可能科目	前期	国際協力法(林)
		International Environmental Law(柴田)
		国際機構法特別特殊講義(柴田)
		国際人権法(外務省・長岡)
		国際経済法(小樽商科大・小林)
		国際公務員養成論(神内)
	後期	多国間条約交渉論(柴田)
		国際法外交実務論(毛利)
		International Cooperation Law(林)
		国際協力法各論(法研・坂元)
		International Criminal Law(早稲田・古谷)
		国際紛争と法特別特殊講義(法研・玉田)
	海外実習・インターンシップ	

2009 年度海外実習「オランダ・ハーグ及びドイツ・ボンにおける国際刑事関係、軍縮関係及び環境関係国際機関の視察」報告書

国際協力研究科国際法プログラム所属の藤井麻衣（D1）と山田悠紀子（M2）が、2009年7月22日から31日まで、柴田明徳教授引率のもと、海外実習の一環としてオランダ・ハーグ及びドイツ・ボン所在の国際機関を視察し、当該機関の職員の方々にインタビューを実施しました。



1 オランダ・ハーグにおける国際機関の視察ならびにインタビュー

オランダ・ハーグでは化学兵器禁止条約機関（OPCW）ならびに旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）を訪問しました。

OPCWでは政策立案部長補佐の村上美弥氏、法務官 Donata Rugarabamu 氏、政務官 Malik Ellahi 氏に、忙しい職務の中お時間をいただきインタビューを行いました。

インタビューでは、現在の化学兵器禁止条約の履行状況に関して議論するとともに、国際公務員を目指すうえで求められる能力やインターンシップの可能性に関して多くのアドバイスをいただきました。

ICTYでは、2つの事件の裁判を傍聴しました。裁判で検察官と弁護人が議論を戦わせている様子を見て、法律が実務でどのように使われているかを学びました。また、GSICSで国際公務員養成論を担当していただいている大西央子法務官補をはじめ職員やインターンの方々とも面会し、これまでのキャリアパスやインターンの業務などについてお話を伺いました。



2 ドイツ・ボンにおける国際機関の視察ならびにインタビュー

ドイツ・ボンでは国連気候変動枠組条約事務局（UNFCCC）ならびに国際自然保護連合（IUCN）環境法センターを訪問しました。

UNFCCCでは、法務官の Feng Gao 氏、人事担当の Marlise Brenner 氏にお話を伺いました。

Feng Gao 氏とは、気候変動条約に関連する国際法的論点について意見交換を行い、法務部におけるインターンシップの現状についてもお聞きすることができました。Marlise Brunner 氏とのインタビュー



では、UNFCCC 事務局におけるインターンシッププログラムの説明を受けたほか、GSICS の「国際公務員養成プログラム」についても紹介しました。

.....